

2025 年 11 月 14 日(金)16:00-16:45

回答者:

執行役員 兵庫真一郎

■国内について

1. 国内事業の利益進捗が弱く見える。4Q でのキャッチアップは可能か？

昨年は 4Q の利益率が低下したが、今年の修正計画では改善してくる計画であり、オントラックである。ヘアケア用剤の伸び率も 3Q は鈍く感じると思うが、10 月発売の新製品「オーバ이트ーリ」が好調であることや、9 月以降の市場の回復感、また万博関連費用の影響が落ち着くことを踏まえると、達成可能であると考えている。

2. 価格改定(値上げ)の効果と浸透状況について教えてほしい

4 月の前倒し需要が強かったこともあり、価格改定を行った 5 月以降、販売数量の減少が起きた。数量の減少については値上げによるものか、市況要因か峻別できない部分があるものの、結果として、値上げ後の 5-9 月で見ると数量減の影響が単価増の影響を上回っており、対象品目については多少マイナスとなっている。一方、7-9 月で見ると数量も回復傾向であり、粗利はプラスとなっている。数量と単価両方の影響を踏まえた、今年の価格改定効果は、前年対比+約 2 億円程度の粗利寄与という予測であるが、これについては達成可能であると見ている。

■海外について

3. 国内に比べ、海外の利益進捗は良いように見える。韓国と米国が好調とのことだが、持続性についてはどうみているか？

韓国の成長持続性については、「民生回復消費クーポン」の使用期限が 11 月末であるため影響を見極める必要があるが、ファンダメンタルズに陰りは見えない。

米国の消費環境は特に良い状況ではないが、代理店との協働の成果により、美容室に当社製品が浸透し、力強い売上伸長となっている。今期の+30%以上というような成長は分母が大きくなってくると、難しくなると思うが、消費環境に対しては強く伸ばしていけるものと考えている。

4. 為替について。円安・タイバーツ高により、粗利が悪化とのことだが、どのようなメカニズムか？

タイに生産工場があるため、円安・バーツ高がネガティブ(原価を上昇させる方向)に働く。修正計画策定時に、この前提は変更しておらず、想定よりバーツ高となっていることの影響を受けている。

■その他

5. 本日まで説明の兵庫氏はこの 4 月からミルボンに入社されたと思うが、元バイサイドとして、ミルボンの強み・弱みをどのように捉えているか

良い点として捉えているのは、ミルボンという会社のことが好きであると公言する若手社員が多いとい

うこと。思っている、なかなか口に出ないことが多いと思う。また、自社の置かれている環境や課題に対して、問題意識を持ち、向上心をもって取り組んでいること。

課題としてはプランニングの部分。予算の精度や在庫の考え方等、改善余地があると考えている。近年、在庫の評価減なども多いが、予算の立て方、特に新製品の予測を外していることも大きい。生産までのリードタイムの長さに対し、市場変化に柔軟に対応できる生産体制の構築、SKU の多さなども検討していく必要があるだろう。一朝一夕ではいかないが、対応していきたい。

以上

注意事項

本資料に記載の内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。

また、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。